

交う部分もあるわけでありまして。私は、今ある課題をどのように解決するか、今我々はそこに力を入れていきたいと思っておりますので、新たな役職をつくらなく対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺議員。

○8番（渡辺栄一君）

市長のご発言もありましたけれども、やはり市民や団体、企業、行政と協働しながら地域の魅力の発掘、発信と総合計画の着実な推進を図ってほしいと願います。

国の制度を利用するに当たってのハードルは、そんなに高くないと聞いております。むしろ希望する人物像に合致するほうを選び当てるほうが大変だというふうに聞いております。あしたやろうはバカヤローなんで、早く糸魚川市のコーディネーターを探し当ててもらいたいことをお願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

ここで、説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

〈午後1時13分 休憩〉

〈午後1時14分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤 麗議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。〔6番 伊藤 麗君登壇〕

○6番（伊藤 麗君）

清新クラブ、伊藤 麗です。

事前に通告いたしました内容に基づいて、1回目の質問を行います。

1、木浦小学校の取組と閉校後の地域について。

10月30日の木浦小学校創立120周年・閉校記念式典、木浦わくわく文化祭に出席しました。記念式典では、木浦小学校の歩みのスライドショーが上映され、卒業生の思い出のスピーチなど、私も一卒業生として胸に迫るものがありました。学習発表会では、生徒の学習の成果が演劇や歌、楽器演奏を交えて楽しく発表されました。

(1) 3・4・5・6年生が総合学習で取り組んだ、錦鯉にまつわる学習の発表が行われました。

糸魚川地域に残る錦鯉の文化について、市としてはどのように捉えているか伺います。

(2) 全校児童と教職員の全員体制で取り組んだ「わくわくプロジェクト」が、博報堂教育財団による博報賞と併せて文部科学大臣賞を受賞しました。わくわくプロジェクトがどのように評価され、今回の受賞に至ったか。市としての見解を伺います。

(3) 閉校後の校舎の活用について協議する中で、市が木浦地区に求めたい機能、行政課題は何か伺います。

## 2、子育て支援について。

1 1月17日の総務文教常任委員会の中で、糸魚川総合病院における産婦人科診療の変更を踏まえた支援策が示されました。

糸魚川総合病院産婦人科での分娩取扱いが再開されるのかどうかと今後の妊産婦支援について、市民の関心の高さを感じております。

(1) 産科存続に向けた取組の進捗について伺います。

(2) 1 1月17日に示された妊産婦支援策について、庁舎内でどのような議論がなされ、この内容に至ったのか経緯を伺います。

(3) デイサービス型・宿泊型の産後ケアについて、今後市として取り組む考えがあるか伺います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2 番目の1点目につきましては、富山大学に医師派遣をお願いするとともに、県や糸魚川総合病院と連携し、医師確保に努めてまいりましたが、現段階では分娩の取扱いを継続できる状況には至っておりません。引き続き関係機関と連携し、医師、診療科の確保に努めてまいります。

2点目につきましては、妊娠・出産された方や糸魚川総合病院からの意見、他自治体の取組を参考として、関係課で支援内容についてを検討してまいります。

3点目につきましては、市民要望や受託可能な事業者の有無を確認し、検討してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の1点目につきましては、子供たちが地域に根づく文化を学ぶことは、地域への愛着形成、地域文化の伝承という点で大変有意義であると考えております。

2点目につきましては、小規模校であることを生かして、学校全体で子供たちがやってみたい活動、みんながわくわくする活動、また笑顔になる活動を提案、実践することを通して子供たちの主体性や創造性を継続して育んだ点が、大変高く評価されたものと捉えております。

3点目につきましては、今後、地域との協議を進める中で、機能や課題を探ってまいります。以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、2回目の質問に入らせていただきます。

番号1の(1)についてです。3・4年生は錦鯉の魅力について、5・6年生は養鯉業についてに視点を置いて学習していました。今回は、先生のほうから木浦地区のお宝発見という題材を基に、木浦って錦鯉が多くいるよねという呼びかけから、子供たちが錦鯉について学習することになったそうです。特に錦鯉を育てる過程で、子供たちの探求心がぐっと深まったのを感じたというふうに担当の先生からお話をお伺いいたしました。錦鯉を育てることに苦戦しながら、最後に生き残った、何匹かは死んでしまったみたいで、残念ながら1匹生き残ってるそうなんですけれども、その生き残った1匹に「こいまる」と名前をつけて、子供たちも先生も愛を持って飼育しているそうです。上越から通われる先生が、木浦に養鯉場や鬼伏に上越錦鯉共販センターがあるということに驚かれて、それを子供たちに投げかけたところから学習が始まったというふうにお伺いしたんですけれども、今回、子供たちが学習に取り上げてくれたことで、生産者の皆さんもとても喜んでいらっしゃると思います。

そこで、ただ残念なことに、錦鯉の生産も農業と同等、もしくはそれ以上の労力が必要なこと、生産者の高齢化で活力が乏しいのが実情でもあります。市としても広報などで品評会、競り開催日を周知してはいますが、今後、生産者のやりがいにつながるような支援のお考えはありませんでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

議員おっしゃいますように、競り市の開催等につきまして、広報、それからマスコミへのご案内というような形で協力をさせていただいております。また今年度から、補助対象経費の中に広告宣伝費を追加しまして、上限費につきましても少しアップをさせていただくというような対応を取っているところでございます。

今なかなか、農業もそうですが、養鯉業についても大変なんだというお話があったところなんです。私も親が養鯉を少しやっております。錦鯉センターに小さい頃はよく連れていっていただきましたし、また、池揚げの労力の大変さとか、あるいは稚魚の選別の大変さといったところもよく分かっているつもりでございます。

また、協議会の皆さんとは、年に何回か意見交換をさせていただく機会もありますので、皆さん

の要望をよく聴く中で、また可能な対応というのを検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

まさか木島課長と稚魚の選別の話とかをできると思っていなかったの、私自身すごく驚いて、なおかつうれしく思うんですけれども、市長にお伺いしたいと思います。

糸魚川には、ヒスイであったりだとか、後は糸魚川真柏、子供たちが学ぶにとってもすごくいい題材があるというふうに思っています。中でも、やっぱり錦鯉においても県の観賞魚であり、国の魚、国魚でもあると思いますので、錦鯉の大切な資源というふうに捉えて、宣伝だけではなくて、何か市民の皆さんにも糸魚川にこれがあるというのは、ある意味何て言うのかな、珍しいというか糸魚川にあるということが、なかなかすばらしいことだというような発信だとか、皆さんにも周知をしていただくというところで、市長のお考え、お伺いしたいんですけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

以前もお答えしたかと思うんですが、やはり今、1次産業、そして特にこの地域については、そんなに多くの業種がないわけでありまして。新たな付加価値のついた農産物をという事柄もあるんですが、しかし実際、今現存するそういった製品というのは、大切にしなくちゃいけないと思いますし、また長い歴史がございますし、また我々の場合、いろいろ見聞きする中においては、そういう競りをする場というのは、全国の中でも、全国じゃなくて県内においても多くない、その中の一つであるわけでありまして。それを考えたときに、やはり錦鯉というのは、県内全域に行き渡っておるものであるわけでありまして、ほかとはやはり少し違っておるという捉え方もいたしておるわけでありまして。そういったところをやはりしっかり知識もある人もおられる、そういうところを糸魚川の特徴として、出していきたいと思っております。

ただ、今、後継者不足であったり、そして携わっている方々は、少し高齢化してる部分があるので、なるべく若い人たちにも関心を持ってもらうということで、木浦小学校が取り組んでくれたのは非常にうれしく思う次第でございますし、そういったところをもっと1次産業の振興の中で生かしていければなと思いますし、また今も課長が検討していくというお答えをさせていただいたように、私もそういったところに力を入れて、また支援をして、皆様方から取り組んでいただけるようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

それでは、本筋の総合学習についての内容で質問してまいりたいと思います。

総合学習は、教科書もなく、テーマも指導方法も自由という時間での指導ということなので、高い指導力を持つ教員でなければ十分な成果を上げることは難しいのが現状なのではないでしょうか。そのため指導教員に負担を強いる結果になって、せっかくの時間を使いこなすことができずに、単に体験活動に終始して、単なるゆとりの時間となってしまうということも懸念されると思います。総合的な学習の時間の課題は、指導者が忙しく、十分な準備時間が取れず、満足のいく内容に授業を行うことができないのではないかと考えます。

近年、公立学校の教員に課せられる事務処理の量が激増しているという報道などもございますけれども、現実問題として、総合的な学習の時間を全ての学校が有意義に活用することは極めて難しいのが実情とも言われています。

この日、学習の発表を一緒に見ていただいた教育長に伺います。

糸魚川市において総合学習とは、学びの中でどのような位置づけと捉えていらっしゃるでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

蘆本教育長。〔教育長 蘆本修一君登壇〕

○教育長（蘆本修一君）

お答えいたします。

まさに議員おっしゃるように、教科書がありません。何をしなさいという具体的な指示もありません。まして、地域を知らない職員も来ます。そのような中で、総合的な学習、総合学習をいかに仕組むか。そしてまた、どういう内容を子供たちに体得させて、成長の糧にさせていくか。非常に重要な部分を担っているのが総合的な学習であります。

糸魚川市の場合は、随分前から糸魚川のジオパーク学習というのが、1つ軸になってまして、これは一貫教育のふるさと学習との対応の中で大変大事にしてきた学習内容であります。総合的な学習の中に、文部科学省が言ってる活動の具体例の中に大事なポイントがありまして、地域や学校の特色に応じた課題をぜひ進めてほしいというふうな例示があるんです。これを糸魚川市の場合はしっかり受け止めまして、やっぱり地域にある大変大事な人、もの、こと、そしてジオパークのいろんな資源というふうな部分を鑑みたときに学校が位置する環境、地域の特色というふうな部分を探究学習の課題のテーマに1つ見いだしながら、蓄積しながら実践をしてきたというのが今日の現状になっています。

過日行われた糸魚川市内の学習交流会というのが毎年やってるんですけども、これはコロナの関係で保護者や一般の方々に見てもらえないような状況になっています。これが数年続いているんです。今回、私も見させてもらいましたけれども、どの学校も非常に総合的な学習で、子供たちが伸びているというふうな部分を心強く受け止めさせていただきました。やっぱり総合学習の過程を通して、子供たちはいろんな教科で学んだことを束ねながら、最終的に発表を通して自信にして、そして自分自身の学び、探究的な過程を振り返って、次のステップに伸ばしていくというふうなステップが大事なことでございます。それが3年生、4年生、5年生、6年生、そして中学校に行っても、この総合的な学習の時間があります。さらに高等学校に行っても、それがつながってくるんです。そう

なってきたときにやはり糸魚川市の場合の特色として、地域の課題、その中にジオパークといういろんな要素というふうな部分のところから、課題を設定して進めていくというスタイルで、先輩たちが築き上げてきた実践例たくさんあります。その実践例を分析する中で、この学年、この先生は何を選ぶのかと。何を課題にして子供たちと一緒に探究していくのかというふうな部分が、各学校にはヒントがいっぱい残ってるはずなんです。そこら辺りを上手に使っていただきながら、部分的にアレンジしたり、あるいは子供たちと追求の方法を相談したり、多種多様な方法をもって進めていくことができる環境が糸魚川市の場合は整っておりますので、そこら辺り先輩教師がアドバイスしながら、若手の教員をサポートしながら今現在、生き生きと実践してるというのが現状でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

自ら課題を見つけて、自ら学んで、自ら考え、主体的に判断するという学習は、私たち大人になっても必要な能力だと思っています。必要なことを学ぶ機会である総合的な学習の時間は、これから先が見通せない時代だと言われている昨今ですけれども、もっともっと大切にされるべき時間になるのではないかなというふうに考えております。

その考えの下に、（2）の質問について、再質問させていただきます。

糸魚川市で木浦小学校が受賞した博報堂教育財団による博報賞と文部科学大臣賞を受賞したということなんですけれども、どんな賞なのかというところと、わくわくプロジェクトの取組、どんなことを取り組んでいたのかをもう少し詳しくお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今の博報賞ですが、大変すばらしい賞なんです、子供たちの主体性を引き出し、すばらしい成果を上げている先駆的、独自性のある教育実践で、波及効果が期待できる草の根的な活動と貢献に送られる賞となっております。さらに今回、木浦小学校が受賞されたものですが、博報賞受賞者の中で特に優れた実践のある場合には、文部科学大臣賞も併せて受賞されるということになっております。

今回の木浦小学校の受賞されたものですが、わくわくプロジェクトによる主体的に挑戦し続ける子供の育成ということで、小規模校のよさを生かしたプロジェクトとして取り上げられております。子供たちが主体的に考えたもの、それを令和元年度から継続して取り組んでいることが評価されたことと聞いております。また、そういった子供たちの企画力、発信力、行動力、共働力、共働というのは、共に働くということですが、内勢力など、そういったものについてしっかりと教員のほうも協力しながら、振り返りを行いながら子供たちの成長を共に見守ってきたという部分が、大きく

評価されたものと聞いております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

よく分かりました。今内容をお伺いしております、小規模校の強みが活かされたところが評価されたというお話だったんですけれども、これから糸魚川市内の小学校で予想される動きとしては、統廃合が進んでいくという動きが想像できるんですけれども、小規模校だから不安を感じられる保護者の方もいらっしゃると思いますし、小規模校であっても残してほしいと地域の方の思いがあったりとかして、小学校の統合するのか、そのまま存続させるのか、すごく難しい問題だというのは承知しているんですけれども、そのときに保護者の方が考えると、やっぱり少ないところでかわいそうとか、体育ができなくてかわいそうだというお声も頂戴いたします。そういう不安を払拭するような取組というのは、行政からできないんでしょうか。今回のこういう小規模校の強みが活かされて、こういうすばらしい取組ができたという事例も皆さんに安心していただける材料の一つになると思うんですけれども、そのほかに安心していただけるように、例えば体育を小さいところ同士で一緒に行ってみるとか、そういうことというのは、取組としては難しいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今、議員言われたように、小規模校、大規模校それぞれ、糸魚川にも大規模校というところは少ないんですけれども、中規模校になりますけれども、それぞれメリット、デメリットというものが、やはりあると思います。小規模校、それぞれの学校の特性に応じたよさというものをやはり十分校長を中心に学校の職員が生かしながら、学校、子供たちのために教育活動を行っているというのが現状であります。

今お話があった体育の授業を合同で行うとか、そういった小規模校同士がお互い連携し合って一緒に交流活動を行うというところは、どこの中学校区でも今行われております。全部が全部行えるわけではないんですけれども、そういった少し弱点に思われるような部分もしっかり補うために、各学校、中学校区で特に連携し合って、今そういった子供たちが困らないように、また中学校に行ったときに大きくまたそういった自分の学校のよさを生かして、今後、生活していけるようにということで、それぞれ知恵を出し合って、運営しているということが事実でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

もう既にそういう取組がされているということで、安心いたしました。

今、わくわくプロジェクトの取組の内容をお伺いいたしまして、私が頭に思い浮かんだのが、ゆとり館で自主上映された文部科学省選定映画の「夢みる小学校」という映画を最近見たんですけども、その中で3つの学校が紹介されておりました。

そのうちの一つ、きのくに子どもの村学園という学校があるんですけども、こちら30年前から体験学習を実践しているということで、私が見ていて印象的だったのは、ここでは先生のことを「大人」と子供たちが呼んでいて、子供と大人の間には上下関係が存在しないというスタンスで運営がされていました。子供がいろいろなことを決める。一人一人の違いや興味が大事にされます。直接体験や实际生活が学習の中心となっています。そのほかにも自由な公立学校、60年間、成績通知表や時間割がないというところだったりとか、後は校則、定期テストをやめたという世田谷区の中学校の取組などが紹介されておりました。

木浦小学校の取組で賞を頂いたというところで、もしかしたら木浦小学校って夢みる小学校だったのかなというふうに、私思ったんですけども、せっかくいい賞を受賞して、その取組が評価されたにもかかわらず、木浦小学校自体は今年で閉校してしまうというところで、木浦の子供たちが能生小学校へ統合した後も、このわくわくプロジェクトというものを続けることが可能なかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小野こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 小野 聡君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（小野 聡君）

お答えいたします。

今回の受賞につきましては、先月の校長会で全部の校長先生方にも周知を図っております。木浦小学校のすばらしい取組というのは、市内の学校に、いい部分を独自に自分の学校に生かせるものとして取り組んでいただけるように紹介したところであります。もちろん能生小学校は、統合先の学校になりますので、こういったすばらしい取組、それから能生小学校に行かれた木浦小学校の子供たちが、そういった自信を持って学校生活を送れるように、よい部分全てを生かせるわけではないかもしれませんが、そういったよいエキスを取り入れながらきっと活動を展開していってくれることと思いますし、こちらでもまたそういった点を要望していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今、高校のほうでも高校の魅力化ということで総合学習の時間に力を入れているところかと思えます。私は、やっぱり総合学習が学校の魅力化のキーポイントだなというふうに感じております。先ほど教育長から総合学習の理念の中に、地域のことを学ぶとか自分の生まれたところについての文化だったり地域を学ぶということが取決めとしてあるというお話だったので、それを前提にするとし少し難しいかなというふうに自分でも思うんですけども、例えば今、子育てとか教育のニーズってどんどん変わってきていると思っています。そのときにやっぱり親としては、子供の得意なこ

とを伸ばしてあげたいなとか、伸び伸びと育てほしいなというふうに考えると思います。そのときに総合学習の取組で面白そうな学校に通わせたいなとか、例えばちょっと飛躍しちゃうんですけども、上越教育大学の附属の小学校のホームページを見ると、総合学習の取組がすごく丁寧につづられていて、それを見ているとやっぱり先進的だなとか、ここに通わせたいなとかというふうに感じるわけなんですけれども、市として、学校、地域の思いの集まる場所で難しいというのは分かるんですけれども、通わせる学校、学校区にかかわらず、選べるようにするというのは、考え方としてはもう全く糸魚川市としてないのか、可能性はあるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

お答えいたします。

前半のほう、ちょっと1つだけ、私、補足説明させていただきたいんですが、総合的な学習の中で、要するに糸魚川市の場合はジオパーク学習を全部その時間を使ってやっているとことじゃないんです。その中には国際理解とか環境とか、あるいは福祉とか健康とかというふうな部分も、もちろんそれが時数はちょっと少ないんですけども、今日的な生きるために大きな課題ですので、当然、SDGsみたいなものもそこに入ってきますし、核になってるのはジオパーク学習みたいなものが、1つ核になってるということをご理解いただきたいと思うし、ジオパーク学習そのものも、ほかの教科との関連で、社会科とか理科とか国語とか音楽とかというふうな部分の教科とのつながりみたいなものもうんとあって、その中で実践的に探究的に体験的に学んでいく、ダイナミックに進めていくのが総合的な学習という位置づけなんです。だから、学校教育全体の中で、それが加味されてますので、教科横断的というふうな言葉を使ってますけども、そんなふうな形でもって子供たちの育ちや学びを進めていくというのが1つです。

それから、後半のほうの説明なんですけれども、選択できないかということなんですが、これは非常に今日的な課題でもあるし、長期的なスパンの中で考えていく大きなテーマの一つであると、私自身は考えています。どの学校も今、魅力化に向けて、小学校、中学校、高等学校、自分の学校の特色は何かということ真剣に考えて、それぞれ子供たちを一生懸命、育ちや学びを保障しながら、生きる力の育成のために全力投球してますけども、どっちの学校がよくて、どっちの学校が低くてとかというふうな部分での、そういった視点で私たちは見てません。どの学校も頑張ってるというようなことを1つ置いて、そういうふうなことをやっぱり地域の方々にも理解してもらいたいし、その中での応援を一生懸命やっていただきたいというようなことです。

ただ、選択というふうな意味合いからすると、やっぱりこれから先の長期的な課題解決の中の一つのテーマには、私はなり得るだろうというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

糸魚川市の学習の中でも教科横断的な学びがテーマとして取り扱われているというところで、そういう先進的な、やっぱりことも取り入れながら、全部の学校で取組は行われてるんだということが分かりました。

先ほどのご答弁の中で、いい悪いとかになっちゃうとなかなか難しいところがあるというのもすごく分かるんですけども、もし学校関係なく選ぶことができれば、もしかしたら木浦小学校も廃校にはなっていなかったかもしれないとか。後は、もしかすると、いい悪いで集中、どこかにしてしまっ、どこかの学校がなくなってしまうとかということもあるかもしれないので、その部分が、恐らくこの課題を考えていく上で、すごく難しい部分だと思うんですけども、市長としては、この部分でやっぱり教育系の学区の問題というのは、市長としてなかなか立ち入れないところなんじゃないでしょうか。これちょっと個人的な興味もあって伺いたいたいですけれども、学区の問題というのは市長だったり行政側が、どのくらい関与できることなんじゃないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

教育は、教育のしっかりした概念の中で取り組まれとるわけでありまして。そういう中であっても、やはり糸魚川市立の学校ということになれば、市としてもやはりしっかりと教育については関わっていかなくてはいけない部分だろうと思っております。

そういう中で、今、教育長が答弁されてるように、我々は大きな1つ糸魚川市の特徴・特性を生かしたものを理念に、頭に置いておるわけでありまして、その理念というのはジオパークの恵まれた自然資源の保護・保全と、そして教育と、そして振興というところを理念に今取り組んでいただいております。非常にありがたいなと思っております。特に小規模校でそういったところを特徴を生かしてみたり、またそのよさを発揮できるようところもあるわけでありまして。私は、やはり今、議員のご指摘のように多様な今時代ですから、教育も多様であっていいと思っております。

しかし、そうはいつでも全体の教育も大事なもので、その辺のバランスをどう取っていけばいいのか、その辺をやはり考えながら、私は早くそういったところを取り組んでいきたいなと。そういう今いろいろ試している部分について、よい点をどんどん、どんどんその中で織り込んでいければいいんじゃないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

学校区の課題について、ぜひ教育長、市長、行政と、地域も意見聞かないといけない部分になっ

てくるんだとは思いますが、どうしても小さいところとか中山間地域から順番になくなっていくだけになってしまうなというふうに感じたもので、それで、この糸魚川の教育はいいのかというところを今議論していただく大切ないい時期、遅いかもしれませんが、議論する必要のある時期に来ていると思います。ぜひ議論していただければと思います。

それでは、(3)の質問についてです。

当然なんですけれども、木浦小学校は、まだ閉校しておりません。第一に今、木浦小学校に通う子供たちが安心して統合先の能生小学校へ移行していく、通えるようになるということが大切だと思っています。統合後に課題が浮き彫りになれば、それに丁寧に対応していただくということもお願いしたいんですけれども、それに加えてやっぱり地域のほうでは、木浦地区公民館の建設地の協議のときもそうだったんですけれども、木浦小学校に公民館を置くべきだという意見もありました。その意見の中には、やっぱり廃校後の活用のことを考えてというものが多かったように感じています。また、10月30日の閉校式典の後には、寂しいというお声と同じくらい、先のことを考えなくてはいけないねというような声も聞かれました。

そこで、お伺いしたいんですけれども、木浦小学校廃校後、活用するという視点を見たときに、行政から立地的であったりだとか、人的・資源的に木浦小学校というのは利活用の可能性、魅力というのを行政的に感じていらっしゃるかどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、木浦小学校の立地であるとか人的な資源という部分でのご質問かと思っております。立地等につきましても、例えば能生のインターから近かったり国道からは約1キロということで、アクセスがいい状況になってるとともに、日本海であるとか木浦川といった自然に恵まれた地域だということ考えております。

また、人的な資源という部分では、それぞれ皆様、木浦地区にお住まいの方は、それぞれの地域を愛する方が多くいらっしゃるというふうに市としても捉えているところでございます。

今後、また利活用につきましては、地区のほうとしっかりと協議を進める中で、活用の方法というのを市も一緒になって検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

私も立地的にも人的資源にしても恵まれていると感じているので、ぜひその活用に向けて、廃校後は地域で動かしていったらいいなというふうに個人的には思っております。廃校の活用を考えたときに、地域の皆さんが心配していらっしゃるの、大きい建物の維持管理費はどうなるのかということなんです。全部地元で維持管理していかなくちゃいけないとなると、やっぱりなかなか手が出せないんじゃないかというような意見もございます。

そこで、私からは行政が認識している課題、行政課題にマッチした事業を地域が事業主となっていくという方法で、つまり地域と行政が協働で廃校を活用していくという方法を提案したいと思っただけなんですけれども、これについて、お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

中村企画定住課長。〔企画定住課長 中村淳一君登壇〕

○企画定住課長（中村淳一君）

お答えいたします。

行政として、これまで学校として利活用してきた施設、今後、地域で活用する予定はないでしょうかといったお話になることから、地域と話し合っていくという手順になるかと思っております。

そういった中で、行政も人口減少といった課題を、大きな課題をはじめとして、いろんな課題を抱えている中で、全ての課題に対応していくというのはなかなか難しいところがございます。そういったところで、地域の皆さんが、地域の課題を自分ごととして捉えて、自発的に活動していただく地域づくりの活動というのは非常に大切なことかというふうに思っております。そういったところで、そういった地域づくりの活動ですとか、そういった事業の内容が、行政がやるべき事業なのかどうか、民間のそもそもの取組なのかといったことによって、今ほどご心配の経費の負担のお話にもなってくるのかなというふうにも感じてございます。

いずれにしても、先ほども申し上げました学校の後の活用については、地区の皆様と話し合っていくことになっていきますけれども、具体的なお話を事案、提案いただきながら、ご相談させていただければと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

今のご答弁で糸魚川市の抱える課題が多過ぎるからという、だから行政から木浦地区にこれをとるのは難しいというのはすごくよく分かりました。理解いたしました。

その中で、であればやっぱり地域が抱えている課題を行政に共有して、それに取り組むという形が一番自然なのかなというふうにも思っていて、私のほうには、例えば農業と林業の担い手が不足しているという課題が市内にあると思うんですけれども、これについて危機意識のある方から専門学校の機能を持たせた施設としての活用はどうかというご提案を私のほうにいただきました。

素人目線で考えても、ちょっと専門科をそこで開設するというのはちょっと規模の大きい、ハードルの高そうなお話だなというふうに感じたんですけれども、先日、建設産業常任委員会の市外調査の中で、みなかみ町の取組を勉強してまいりました。

みなかみ町では、自伐型林業というのを推進しております、自伐型林業というのは、自分たちで木を切ったり使ったり売ったりする自立自営の昔ながらの林業の形だということが分かりました。これであれば、木浦地域で取り組むということは可能なんじゃないかなというふうにとちょっとイメージが結びついたので、考えて見たんですけれども、自分に置き換えて考えてみると、突然やっぱ

り林業とか農業に取り組みと言われてもかなりハードルが高いですし、難しい。なので、人材育成の取組から始めて、チェーンソーの研修をしてみるだったりだとか、あと間伐についての必要性や適当な間隔、間伐の適当な間隔について学ぶとか基礎の基礎から学ぶような場所にしてはどうかなというアイデアがちょっと浮かんだんですけれども、そういうことをしようとしたときに学ぶための何か助成制度などはあるんでしょうか、ちょっとお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

一般の方が林業・農業について学ぶ際の助成制度ということなんですが、学びの深さといったところにも関わってくるかなというふうに思います。林業に関して言えば、チェーンソーの講習会というのは、今民間の団体さんでやっておられますし、過去においては、市・県のほうで計画しながら、何回かシリーズでやったこともありました。そういったところの取組が今後必要だと思いますので、市としては、そういう市民の方のニーズというのがどのくらいあるのか、そういったところも調べながら、またそういった教室の開催等に持っていくことができればというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

実際にそういう市民の動きが出てきたとしたときに、みなかみ町の取組で破砕機というすごく専門的な人が扱うような機材なんだと思うんですけれども、これを自伐型林業に取り組む団体に貸与している、貸出しをしているというお話をお伺いしました。自分で林業に使う機材をそろえるというのは、かなりまたハードルが高いので、機材の貸与というのはすごくいいなというふうに思ったんですけれども、民間にそういう取組の事例が出てきたりだとか、ニーズの声が上がってきた、動きが出てきたとなれば、その貸与などの可能性というのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

みなかみ町さんは私も視察に同行させていただいたんですが、当市の半分くらいの人口にもかかわらず、たしか11グループ100名ぐらいの方が自伐型林業に取り組んでられるということで、大変私も担当課としましてうらやましく思いながら視察をさせていただきました。

また、一番印象に残ったのは、皆さんがすごく笑顔で楽しそうに作業をしてられるといったところが一番心に残ったところでありまして、お話を聞いたところでは、やはり行政からの主導ではなくて、自分たちで内発的にそういう、自主的にそういうグループが生まれていったんだというようなお話もありましたので、自分たちがやりたいことをやっているといったところは、そういった笑

顔につながっているのかなというふうにも思っております。

今活動が、そういうグループができて活動が盛んになったときに、その可能性はあるのかといったご質問なんですが、市としては、ぜひ今林業もそうですし、農業の担い手も減っておりますので、そういう小さい担い手さんを育成するという観点でも、できるような支援はしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

木浦小学校廃校後は、できれば木浦地区の小さい拠点として活用されていけばいいなというふうに思っています。そのときにやっぱり中山間地域特有の悩みで、交通手段に不安を感じているという方も多くいらっしゃいますので、西海で実証実験があったグリーンスローモビリティの取組だったりだとか、すごく農業や林業と相性がいい取組だと感じておりますので、そういうものと組み合わせながら、グリーンスローモビリティのこれからの取組の広がりも併せて期待しているところであります。

財団や国から、未来を育む教育、未来の先進的な事例として評価されて賞を取った学校が糸魚川市から1つなくなってしまうということに関して、私を含めてですが、大人たちがそれを受け止めて、よくこれから先のことを考えるきっかけにしていきたいなと思い、今回、この一般質問の内容にさせていただきました。

糸魚川市のスタンスとして、廃校か存続か決めるのは保護者であって、地域であってというところなんですけれども、廃校の活用を進めるか進めないかも地域からの声や動きに委ねられているところが実情です。でもこれというのは、その地域に未来を見据えて動ける人材、人がいなければ、その地域はなくなっていくということと、イコールなんじゃないかなというふうに感じています。だから、先ほどの総合学習という学習が大切なんだなというふうにも思うんですけれども、これから先、行政が悪いとか、行政が何にもしてくれないから学校がそのまんまだとか、地域住民が何も動かないからそのまんまだというような、そういうやり取りになるのではなくて、何とか木浦小学校が行政と地域の協働という形で廃校利用のモデルの一つになれるように、私としては地域と行政のつなぎ役として働いてまいりたいと思っておりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、番号2、子育て支援についてお伺いいたします。

(1) 産科存続に向けた取組の進捗については伺ったんですけれども、婦人科も存続ができるというのを先ほどの渡辺議員の一般質問の中で、私も承知させていただいたんですけれども、医師確保で今うまくいっていないというところで、課題は何と捉えていらっしゃるのかお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

産科医師ということで、答弁させていただきますけども、分娩への24時間の対応が必要になるということで勤務環境が大変厳しい。それから、急変した場合、訴訟リスクも伴うというようなことから、そもそも産科医を志す方というのは少ないんでないかなというふうに伺っております。

また、お医者さんのほうも症例の多い大きな病院、あるいは生活の利便性の高い大きな都市で、住んで仕事をしたいという方が多くおられるものですから、糸魚川のような小さな病院、小さな都市については、確保が少し厳しい状況でないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

諦めずに本当に医師確保、取組のほうをお願いしたいところなのですが、1つ聞きたいことがあります。2024年の医師の働き方改革で、糸魚川総合病院においても、例えば産科医であれば、1人や2人加配しただけでは維持ができないんじゃないかというような一般論もあると思っています。

そこで、今、医師の確保をなかなかできていない状況なんですけど、いつまで医師の確保に対して尽力、医師の確保に向けた努力というのは続けてくださるのでしょうか。何か区切りみたいな、ここまでで医師が見つからなければ諦めるとか、何かそういうゴールというか、区切りというのはもう今行政の中にあるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり糸魚川総合病院の考え方、厚生連の考え方によると思っています。糸魚川総合病院が、もう辞めるということになってしまえば、糸魚川市だけで頑張ってもどうにもならないものですから、やはり連携を取りながらしっかりと産婦人科を設置していくことが、まず基本的に。そして、今の産科については、私といたしましては、諦めず継続していきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

（2）の質問の再質問をいたします。

3つの支援策が、11月17日の総務文教常任委員会の中でお示しいただきました。私のほうからも、早くに妊産婦支援の施策、何か示してほしいというのはちょっとお願いしていたところで、示されたというところにまず、1つちょっとほっとしております。

ただ、助成の内容なんですけれども、妊娠が分かってから出産まで、すごく長い期間があるわけなんですけれども、今回示された施策というのは、出産時、重点的に支援するものだと思います。臨月までの月1回の定期健診や不安定、妊娠の継続が不安定な場合は、妊娠初期も何度も通院が必

要になるわけであります。その中で出産時という支援にフォーカスした理由をお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回の支援につきましては、糸魚川総合病院の分娩の取扱いが休止に伴うものでありまして、市外に行かざるを得なく、出産時のタクシーであるとか宿泊費も入れて検討してきたところでございます。

今ほどお話のありました出産に至るまで、例えば妊婦健診であれば14回、その後の産婦健診を1回でいいますと、15回は病院のほうに通わなきゃいけないというふうな実情がございます。そういった中で、私どもも15回の交通費に相当する部分ということで、例えば上越市、例えば富山県に行きますと往復で100キロ近くかかりますので、そういった部分につきましては、今回、交通費の支援という部分も含めまして、出産のお祝い事業の中にそういった部分を含めた考えであります。妊娠から出産、また産後ケア、育児ということで、一連の流れで子育ての支援をしてみたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

子ども誕生お祝い事業の中に含めたということで、了解いたしました。

私たち世代の出産適齢期の方以外からもお声を頂戴しておりまして、里帰りの出産にも、この支援を適用させてほしいという声をいただきました。里帰りされた方には、今まで糸魚川病院の分娩存続させるための支援でお祝い金があったと思うんですけども、今回それが全くなってしまうということで、親御さんの世代の方から帰ってこいって言ってあげたいし、帰ってきたときにやっぱり糸魚川いいねと、その帰ってきたときには、糸魚川総合病院を使うつもりでいるんだから、同じじゃないかというようなお声も頂戴しておりまして、この部分に関しては、親御さんの心情としてごもっともだなというふうにも思いました。その支援については、いかがでしょうか。お考えをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回3つの支援制度を考える中で、里帰り出産についてどうしようかということにつきましても検討した次第であります。現在の中では、まずは市民をということで考えたところでございます。

しかしながら、里帰りの方への支援につきましては、今後も少し検討してみたいと思っておりますし、里帰りという部分につきましては、やはり妊婦の方であったり、その親の方にとっては、

とりあえず安心といいますか、そういった気持ちがあるということにつきましては、市としましても理解をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

検討いただけるということで、ぜひ前向きにご検討いただければと思います。

それでは、（3）についてです。デイサービス型、宿泊型の産後ケアについてなんですけれども、こちらに関しては、母子保護法の一部を改正する法律が2021年、令和3年4月1日に施行されております。これに基づいて、やっぱりほかの自治体でも積極的に取り組んでいくという流れが広がっているところであります。

私の経験なんですけれども、経験談で恐縮なんですけど、5日間、私、入院期間だったんですが、産後、予想以上にがたがたな体と、初めて対面する赤ちゃんと、5日間の間に沐浴の仕方、軌道に乗らない授乳の指導、産熟期とはどんな時期なのかの座学というような、これ子育てのガチンコ合宿みたいだなと思いつつ、忙しく5日間過ごしたのを覚えております。そういうときに、休めるときに休んでねというような言葉をかけられても、休みたくても休めないんだよというような気持ちになったりとか、すごく産後の心情、心って不安定だなというのも体験としてあります。そんなときに、心と体のサポートを専門家から受けられる場所が分かりやすく市内にあるといいなというふうに感じております。

ほか自治体では、病院や助産院で受けられるデイサービスや宿泊型のサービスを利用することに関して、行政が助成金を出している事例もたくさんございます。糸魚川市、上越市、お隣の上越市にも現状こういったサービスないんですけれども、例えば行政が主導でというのは難しいのであれば、民間の方がこれに取り組もうという声を上げてくださったとしたときに、糸魚川市として支援するお考えがあるかどうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

産前産後のケアにつきましては、訪問型につきましては、既に実施したところでございますが、デイサービス型であるとか宿泊型につきましては、現在、議員おっしゃるとおり市内にはサービスがない状況であります。

今ほどおっしゃいます産後の心や体のケアや育児支援に伴うものにつきましては、民間で、もし実施をしていただければ、業務の委託につきましても検討していきたいと思っておりますし、なかなか事業をやるには、やはり経営ベースというのものもあるかと思っております。経営の部分と併せて、市民の要望的な部分も吸い上げていかなければいけないかなと思っておりますので、私は各種事業を行っておりますが、十分皆様に周知できていない部分もありますので、既存の事業も含めまして、周知等につきましては、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

周知は、私も課題だと感じておりました。民間にソフト事業はどんどん委託していったほうが、かえって市民の方の利便性も向上していいのではないかなというふうに思いますので、その部分、取組のほうよろしく願いいたします。

出産期、妊娠期から育児期を切れ間なく支援するというのであれば、流産、死産、中絶をされた女性への支援も必要かと思いますが、その部分、糸魚川市はどのようになっているのでしょうか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

流産や死産、また人工妊娠中絶といった部分につきましては、今年度当初に国のほうでもそういった方への家族の支援の手引きというものを発行といいますか、されたところでございます。

そういった中で、市といたしましては、市の母子保健の中でそういった方々全てを把握できる状況ではない段階でございます。基本的には、医療機関や主治医、また看護師や心の心理職がお一人お一人の状況に合わせたケアを行っているところでございます。

また、市で支援が必要な方につきましては、医療機関から市のほうへ情報提供といったものもございます。そういった方々につきましては、助産師や保健師が個別で支援をしている状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

出生数や人口というように、度々数が話題に上がるんですけれども、同じ妊娠でも同じ産後鬱でも、一人一人妊婦さんによって、女性によってストーリーが違うので、そのストーリーを大切にしたいです。制度設計も、数が根拠じゃなくて、見直していく必要があると思いますが、その部分、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

議員今ほどおっしゃったとおり、妊産婦の家庭の状況であったり、取り巻く環境というのは、それぞれ異なるということ、また、決して数だけではないということも意識をして、これまでも支援に当たってきてるところでございます。

そのような中でも市といたしましては、産後ケアにつきましてもヘルパーの派遣であるとか、母

乳相談など、少しずつではありますが制度化し、充実してきたというふうに私どもでは捉えております。

ただ、まだまだ足りない部分もあるというふうに感じているところでございます。国のほうでも現在、今年度の2次補正予算の中で、妊婦や子供に向けまして、伴走型の支援ということで相談体制を充実させていこうといったことも打ち出しております。様々な方々の力を借りながら、必要な支援が行き届くよう制度の構築が必要ではないかというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤議員。

○6番（伊藤 麗君）

これで終わります。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を2時半といたします。

〈午後2時18分 休憩〉

〈午後2時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

保坂議員。〔11番 保坂 悟君登壇〕

○11番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問を行います。

1、駅北子育て支援施設の目的と市民周知について。

(1) 市民会議とまちづくり会議で決めたにぎわいの拠点施設について。

① 「複数分散型のまちづくり」について回遊性の取組はあるか。拠点整備ばかりで、民間力による周辺への波及を論じないのはなぜか。

② 「子育て支援を中心とした機能」について「乳幼児向けの屋内の遊び場、多様な子育て相談の場、高齢者の活躍の場」を整備して、最終的に多世代交流を目指すことを市民周知できているか。

(2) 子育て相談と屋内遊戯場の必要性について。

人の運動能力は幼児期の3歳から6歳までで8割が決まると文部科学省は説明している。